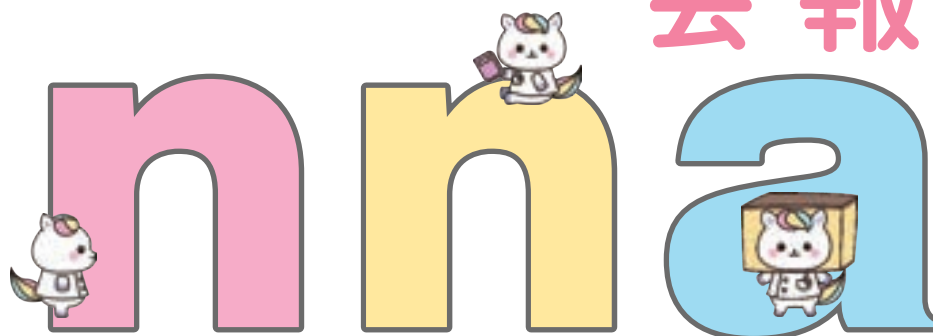




発行所：
公益社団法人 長崎県看護協会
〒854-0072
長崎県諫早市永昌町23番6号
TEL (0957) 49-8050(代)
FAX (0957) 49-8056
発行責任者：日野出悦子
印刷：株式会社クラフィット

nagasaki nursing association

理念

一人ひとりに寄り添う、
安心と信頼の医療を
提供する病院を目指します

令和7年度 会長あいさつ	2
特定行為研修修了者のお仕事紹介	3
地区支部だより	4
新人看護師へのエール 先輩も失敗(やらかし)ちゃってます	6
医療的ケア児シンポジウム開催報告	7
地域で働く保健師の活動内容と 魅力発信イベント開催報告	8
研修情報	9
病院紹介 独立行政法人国立病院機構 長崎病院	10



新年度のごあいさつ

公益社団法人 長崎県看護協会

会長 日野出 悦子

会員の皆様におかれましては、日頃から本協会の事業推進にご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

2025年度がスタートいたしました。2025年といえば「2025年問題」。団塊の世代が75歳を迎え後期高齢者となり、本格的な超高齢化社会を迎えるタイミングの年です。2025年問題は、医療、介護のサービス需要の急増と併せて、少子化が進むことにより、医療・介護の人材確保が懸念されています。今では、「これから先2040年を見据えて」といわれ、「治す医療」から「治し支える医療」へと、医療と在宅介護との連携が尚一層求められ、多職種連携、医療・介護のIT化、DX推進、タスクシフト／シェア等、看護業務の効率化等を進められるようになりました。

このような時代の変化に対応するために、日本看護協会では、2015年に公表した「看護の将来ビジョン」に続き、2040年を見据え、新たな「看護の将来ビジョン」を本年の6月の通常総会において公表する予定としています。

2040年頃の社会課題に対し、次なるビジョンに進むために、看護が向かう新たな挑戦として策定されます。

本協会としては、日本看護協会の新たな「看護の将来ビジョン」に沿って、看護職能団体として使命を果たすことが重要と認識しているところです。

本協会の令和7年度の重点目標は、 1. 全世代の健康を支える看護機能の強化 2. 専門職としてのキャリア継続の支援 3. 地域における健康と療養を支える看護職の裁量発揮 4. 地域の健康危機管理体制の構築の4点を掲げ、事業を展開していきます。また、公益社団法人長崎県看護協会として、強固な地盤づくりと明るい未来につなぐためにも、引き続き、組織基盤の強化を念頭におき、理事会や支部と連携して活動してまいります。

また、会員の皆様のご支援とご協力を得ながら、理事はじめ協会職員一丸となって、令和7年度の重点目標に沿って、協会事業はもとより、県委託・補助事業、日本看護協会委託事業等、多くの事業等に取り組んでいきます。

本年度も、会員の皆様の声に耳を傾けながら、課題解決に向けて取組んでまいりますので、引き続き、ご支援とご協力の程、どうぞ、よろしくお願いいたします。

令和7年4月

特定行為研修修了者のお仕事紹介

お告げのマリア修道会 聖マリア病院 戸村 純子

今回は離島（下五島）で活躍されている特定行為研修修了者を紹介します

修了した特定行為区分

呼吸器関連（人工呼吸療法に係るもの）

- ・侵襲的陽圧換気の設定変更
- ・非侵襲的陽圧換気の設定変更
- ・人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量調整
- ・人工呼吸器からの離脱

呼吸器関連（長期呼吸療法に係るもの）

- ・気管カニューレの交換

栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連

- ・持続点滴中の高カロリー輸液の投与量調整
- ・脱水症状に対する輸液による補正

血糖コントロールに係る薬剤投与関連

- ・インスリン投与量調整

受講しようと思った理由

管理職の方に勧められ特定行為制度について知りました。離島の小規模病院である当院は、医師不足により、医師はあたりまえのように休日、時間外に働き対応していただきますが、少しでも自分にできることがあればと思いました。初めての急性期、三次医療機関での高度な知識と技術の習得はとても大変でしたが、長年同じ病院で行ってきた自分の看護を見直すことができ、とても勉強になりました。

具体的な活動

気管カニューレの交換、血糖コントロールのためのインスリン調整、人工呼吸器装着患者の呼吸器設定変更、離脱のためのアセスメントを主に行っています。今年は病院に暖房が入ると、気管カニューレの痰による閉塞が相次いでみられ、患者毎に体液評価、気道浄化のアセスメント、二重管へのカニューレ変更を検討し対応しました。インスリン調整は、患者に食事を待たせないタイムリーな対応を心がけています。感染症を繰り返し、容易に重症化する慢性期、長期療養患者のQOL維持に、主治医、病棟スタッフ、ご家族と協力して努めています。行為を行なうことで、その人に必要なケアにつながり、看護が充実する対応を心がけています。

これからの展望

医師、スタッフとのコミュニケーションを大切にし、アセスメント力、臨床推論能力を高めるために学び続けたいです。高齢で治療を希望しない終末期患者の看取り、離島で環境が整わないため、本人の意に添わず生活スタイルの変更を余儀なくされる方など、支援方法は人それぞれです。「地域の要望に応え、いのちの尊厳と心と身体と魂の癒しのためにいき届いた医療を目指す」当院理念に少しでも貢献し、多様化する必要に応えられるよう柔軟にチャレンジしていきたいです。



GOOD
JOB!

地区支部だより

各支部の活動やお知らせをお届けします

県南支部

支部長 糟谷 操子

暖かな春の日差しがなにより嬉しい季節となりました。支部事業は予定していた看看連携交流会及び新企画の病院・施設・在宅看護職員交流会を最後に令和6年度の事業もほぼ開催することができました。会員の皆様には日頃より支部事業へのご協力に感謝申し上げます。

団塊の世代が75歳以上になる2025年を迎え、“病院”から“在宅”への時代を迎えています。地域でよりよく暮らすためには、独居や介護力不足により支援を必要とする高齢患者も少なくありません。今回、看看連携交流会及び病院・施設・在宅看護職員交流会では「様々な問題を抱えながら地域で暮らす高齢者を支える多職種連携の実践」がテーマでした。地域包括ケアシステムにおいて高齢者を支える多職種連携の実践を知り、地域の中で安心して暮らせるために、医療職が担う役割とその支援について考える機会となりました。

今年度も看護協会の重点目標達成に向けて、県南支部事業を実施してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



看看連携講習会



病院・施設・在宅看護職員交流会

県央支部

支部長 中尾 理恵子

令和7年度が始まりどの施設も新規採用者を迎え、明るく元気にスタートされていると思います。2月1日(土)に開催しました『「看看連携：多職種連携会議」：在宅でADL拡大を果たした症例の多職種連携』について報告致します。50名の参加がありました。3名の情報提供者からADL拡大のための実践報告(91歳、女性、ADL自立状態から圧迫骨折で病院で口腔ケアも十分行われず寝たきりになり娘さんの希望で在宅看取りを視野に入れた在宅医療となった方が自力歩行になった事例)がありました。グループワークでは①なぜこの利用者さんは早期にADL拡大したのか②自施設の多職種連携はどうなっているか?③好事例を生むために自分がやっていきたいことを宣言するについて討議、共有しました。医原病を作らない、家族とのコミュニケーションの重要、住み慣れた環境へいち早く戻していくことの重要性などが出されました。「看護の原点に戻って看護しようと思った、このような研修会に参加して色々な意見を今後も聞きたい」などの声が聞かれ、とても明るく活気あふれる研修会でした。県央支部では令和7年度も看護の本質を追求する交流会を企画していきます。皆さん振るってご参加ください。



県北支部

支部長 橋本 康代

新緑の若葉にすがすがしさを感じる季節になりました。

県北支部では、令和7年2月8日に開催予定にしていた看護職連携構築ネットワーク会議が、寒波の影響による悪天候予想のため急遽中止になりました。テーマを「住み慣れた地域でその人らしく生きる在宅医療とは～在宅での社会生活を継続するためには～」という内容で企画し、講師は退院支援コーディネーターとして活躍されている方に依頼していました。

また、参加対象を在宅支援や医療介護の仕組みや方法を知りたい方、在宅医療に興味のある方など、看護職以外にも幅広く募集し、理学療法士や行政の認知症地域支援推進委員、予防プランナーSCなどを含む18施設28名のお申込みがありました。他施設の参加者同士でより良い交流が持てるよう、新たな計画として名刺交換の時間も設けておりましたが、残念ながら叶いませんでした。

今年度は、看取りや末期癌のターミナル患者を取り巻く環境をテーマに、有意義なネットワーク会議となるよう企画してまいりますので、ぜひ皆さまのご参加をお待ちしております。

下五島支部 支部長 江口 美子

冬の厳しい寒さを乗り越え鮮やかな椿の花が咲いた2月・3月の五島市では、椿のイベントで盛り上がりを見せていました。令和7年2月22日・23日に『全国椿サミット』が開催され、全国より椿愛好家など多くの方が訪れました。3月2日には『五島つばきマラソン』が開催され、長崎県看護協会下五島支部からも4名の協会員が、医師と市の職員とともに救護としてサポートしました。椿のイベント同様、今年度の協会活動も盛り上げていきたいと思っています。令和7年度の事業計画として、令和7年6月28日には緩和ケア認定看護師による『緩和ケア～患者の希望への関わり～』支部交流会を開催予定とすることができました。緩和ケアの意義、患者・家族のQOLへのアプローチなど、看護職の皆さんと共に考える有意義な時間を提供できるように準備していきたいと思っています。ご参加いただけると嬉しいです。どうぞよろしくお願いいたします。



上五島支部 支部長 法村 円美

春風と海からの風が心地よい季節となりました。新年度が始まり気持ちも新たに業務に取り組まれていることと思います。

上五島では、1月～2月にコロナ感染が猛威をふるい、楽しみにしていた“病院フェスタ”や2ヶ月毎開催の“まちの保健室”の中止を余儀なくされ、積極的な活動が出来ずに残念に思っております。そのような状況下においても、看護協会のオンライン等による研修の機会が充実し、自施設に居ながら学びを深めることができ感謝しております。

今年度も様々な支部活動に取り組んで参りますので、皆様のご理解とご協力を宜しくお願いいたします。まずは5月の「看護の日の記念イベント」6月の「上五島病院フェスタ」へお越しください！

(今回は、上五島のキレイ!と美味しい!をご紹介します)



壱岐支部 支部長 末永 美幸

暖かな春の日差しに包まれ、新年度を迎えました。各病院でも新入職員の方々を迎えられ、スタッフ育成が始まったところだと思います。希望に満ち溢れた姿に、私達も初心に帰り新たな気持ちで活動に取り組んでいきたいと思っています。

今年度は離島間通信研修で壱岐支部担当になり、配信研修を取りまとめ、学びの場を広げていきたいと思っています。又、昨年から再開しました高校生ふれあい看護体験等も各施設の協力を得ながら力をそそぎ取り組んでいきたいと思っていますのでよろしくお願いいたします。

今後の研修会の案内

日 時：令和7年7月17日 場所：長崎県壱岐病院第一会議室
テーマ：スキンケアについて 講師：皮膚排泄ケア認定看護師 横山 操 氏



対馬支部 支部長 福島 利恵

11月19日に離島就業看護職研修会を開催しました。「高齢者における誤嚥性肺炎予防」をテーマに、佐世保から摂食嚥下障害看護認定看護師の久田佳寿美氏を講師にお迎えしました。嚥下に関する解剖生理をはじめ、口腔ケアや食事支援、ペットボトルや拭き戻しを用いた喉の体操の実践もあり、活気ある研修会となりました。

11月24日には、対馬市交流センターで開催された「食育フェスタ」に、まちの保健室を設け、血圧測定や健康相談を行いました。学校給食研究会や保健所、栄養士会、総合薬局、物販などのブースもあり多くの来場者で賑わいました。まちの保健室にも69名の方が立ち寄って頂き、話す機会を得て、嬉しかったです。

1月から支部長として島内の「ACP関連の推進に向けた関係者会議」に参加することになりました。まちの保健室での「元気なうちから手帳」配布を開始・継続し、看護協会として貢献できればと考えています。



新人看護師への
エール！

先輩も失敗ちゃってます。

私の失敗ネタ

- 新人の頃、患者さんへタメ口で接していたらクレームがきた。
- 小児科勤務時代、入院する子どもの保護者に挨拶しに部屋を訪れました。子どものそばにいた人を見たくて、祖母だと思い、「おばあちゃんですか？」と声をかけたら、「母親です」と言われました。急いで訂正し謝ったのですが、お母さんに泣かれてしまい、本当に反省したことがありました。それからは、初めて会う人には、お母さん、お父さん、お姉さん、お兄さんなど相手が傷つかない名称で呼ぶようにしています。

看護師あるある

自宅の電話に出て、
「はい、〇〇病棟です」と
言ってしまう。

鳴っていないのに、
「今、ナースコール鳴らなかった？」と
廊下に出て確認してしまう。

知人に健康相談を
されがち。

トイレを我慢しがち。

普段、マスクしているから、
アイメイクで目力がすごい。

ホテルでシーツや
リネン類のしわを
チェックしてしまう。

人の腕を見て、
採血しやすそうと
血管を探してしまう。

だいたいみんな早食い。

バックの中に
常備薬を入れている。

夜勤明けに、
モニター音が耳に残って、
「今鳴った？」と聞きがち。

何かしらホラーネタを持っている。
患者さんがいない病室から
ナースコールが鳴るとか。

ドクターの字が
達筆すぎて（笑）読めない。

街中で高齢者を見かけると、
心配でしばらく見守ってしまう。

子どもや自身の
病院受診時に、
問診票を事細かに
書いてしまう。

小児科勤務していると、
聴診するとき、大人にも
「もしもしまーす」と言ってしまう。

健康指導しているのに、
自分自身が一番不健康な生活を送っている。

新人看護師のみなさんへ応援メッセージ

ミスや失敗は誰にでも起こります。そこから多くのことを学んで、あなたのエピソードを紡いで
いってほしいと願います。

報告

医療的ケア児等の災害対策について

実際の避難訓練の発表から学ぶことが多くありました

令和7年3月8日（土）、ながさき看護センターにおいて、オンラインを併用し令和6年度長崎県医療的ケアが必要な在宅小児等に対する支援事業（県委託事業）シンポジウム「医療的ケア児の災害対策」を開催しました。参加者は会場40名、オンライン52名で、看護職をはじめ、相談支援専門員、社会福祉士、学校や幼稚園関係者、医師等様々な職種から参加がありました。

シンポジウムでは、座長を長崎県医療的ケア児支援センターのセンター長の岡田雅彦氏に務めていただき、進行了しました。特別講演として熊本県医療的ケア児支援センター（以下支援センター）副センター長の小篠史郎氏より、「地域防災の中で考える医療的ケア児等の災害対策」についてご講演いただきました。熊本地震の経験や医療的ケア児とその家族、地域住民、訪問看護ステーションや自治体関係者等が参加した避難訓練について、また、医療的ケア児は複数の避難先（在宅避難、一般避難所、福祉避難所、病院等）を想定し、自助力を高めること、市町村は医療的ケア児の個別避難計画を作成し、避難訓練の実施すること等医療的ケア児の災害対策や支援センターの役割、支援活動について講演されました。

シンポジウムでは、「長崎県の医療的ケア児等の災害対策」というテーマで波佐見町役場、訪問看護ステーション鳴見、長崎県医療的ケア家族会から発表していただきました。波佐見町役場 子ども・健康保険課の係長 金子由佳氏より、令和5年度から実施している医療的ケア児の避難訓練について、その計画から準備・実施までの流れ（庁内関係課との共有、家族との連絡、実施後の反省等）や避難訓練で見えてきた課題等の発表がありました。訪問看護ステーション鳴見 所長の松島由美氏より、災害が発生した時は、医療的ケア児にとって電源の確保が一番重要で、そのため地域の病院や自治体に掛け合い、各自で移動ができるように避難訓練を実施し、医療的ケア児やその家族の自助力を高める支援を平時から行っていることの発表がありました。長崎県医療的ケア家族会代表の宮田貴史氏より、ご家族の立場から避難行動要支援者の登録をすることも、自助力を高めることとなり、個別避難計画が作成され避難訓練の実施につながると発表がありました。

意見交換では、会場から意見や感想があり、短くも有意義な時間となりました。

アンケートでは「行政の立場の保健師として、必要性を感じていますがなかなか関係課の認識の相違に悩んでいます。」「医療的ケア児の在宅支援や災害時の支援において、地域とのつながり、多職種との連携の重要性を強く感じました。また、災害時の備え、訓練等も細かな支援計画を立案し実践できるような体制づくりが求められると思いました。」等たくさんの感想をいただきました。



▲小篠 史郎 氏



▲岡田 雅彦 氏



▲左から 宮田 氏、松島 氏、金子 氏



取材後記

小篠先生が熊本震災について感極まられる場面があり想像を超える現場だったんだなと感じました。熊本県では支援センターが、医療的ケア児やそのご家族を中心に自治体や地域を巻き込んだ支援をされていました。長崎県においても医療的ケア児の避難訓練を実施している地域もあり、それが県全体に広がることを期待したいです。

地域で働く保健師の 活動内容と魅力発信イベントを 開催しました！

令和7年2月8日（土）、看護学生、大学院生等を対象に、ながさき看護センターにおいて、長崎県庁、長崎市、佐世保市、諫早市、大村市、平戸市、松浦市、五島市、西海市、雲仙市、波佐見町、長与町、佐々町、小値賀町、新上五島町の15自治体のご協力を得て、地域の保健・医療の専門職として長崎県内の様々な場所で活躍し、住民の健康を支える保健師の活動内容や魅力を、現場の保健師がお伝えしました。また、保健師職能委員会からは産業分野で働く保健師の活動紹介も行いました。相談会においては、各自治体の人事の担当者から、採用試験や就職後の福利厚生面などを説明頂きました。参加者は27名と昨年度より多く、積極的に自治体の保健師に質問される学生さんが印象的でした。保健師を目指す看護学生、大学院生にとって、保健師の魅力を知っていただく良い機会となりました。



研修情報

2025年7月～9月の研修情報をお知らせします。研修の詳細とお申込みについては、マナブルをご確認ください。



月	研修No.	研修名	開催期間	申込期間
7月	2504	[公開講座] 感染症の基礎知識と感染対策②(感染管理)	7/3(木)	5/1(木)～5/30(金)
	2505	研究計画書を作ってみよう ～看護研究の基礎から学ぶ～(3日間コース)	①7/4(金) ②7/25(金) ③8/13(水)	
	2506	認知症高齢者の正しいアセスメントとケア	7/10(木)	
	2507	看護師に求められる実践力(3日間コース)	①7/11(金) ②7/30(水) ③7/31(木)	
	2508	New[公開講座] 看護師のキャリア支援～自己の看護人生を描く～ (看護師に求められる実践力)	7/11(金)	
	2509	看護補助者の活用推進のための看護管理者研修 改訂版 2024【第1回】	オンデマンド及び 集合研修7/17(木)AM	
	2510	看護補助者の活用推進のための看護管理者研修 改訂版 2024【第2回】	オンデマンド及び 集合研修7/17(木)PM	
	2511	看護の現場ですぐに役立つ看護記録 ～伝える記録のコツと書き方～	7/18(金)	
	2512	New VRでせん妄疑似体験!「ほんとうに必要ですか身体拘束」	7/19(土)	
	2513	[公開講座] 感染症の最新動向 新興ウイルスと感染予防対策(感染管理)	7/29(火)	
	2514	[公開講座] 職業感染防止の実際・侵襲的な器具や処置の感染予防対策(感染管理)	7/30(水)	
	2515	New[公開講座] 看護師だからできる人材育成(看護師に求められる実践力)	7/30(水)	
	2516	New[公開講座] 人材育成に活かすコーチングスキル(看護師に求められる実践力)	7/31(木)	
8月	2517	地域と病院をつなぐ外来看護 ～在宅療養支援における外来看護の課題・役割～	8/6(水)	6/1(日)～6/30(月)
	2518	呼吸器に強くなる!基礎から学ぶ呼吸① ～フィジカルアセスメント～	8/20(水)	
	2519	医療・看護における倫理 ～倫理的問題とその対処方法～	8/21(木)	
	2520	現場に役立つ!褥瘡ケア ～最新知識に基づいたケアの実際～	8/22(金)	
	2521	New 災害時の院内対応を学ぼう!	8/28(木)	
9月	2522	地域包括ケアシステムを知って看護の現場に活かそう学ぼう!	9/3(水)	7/1(火)～7/30(水)
	2523	慢性腎臓病患者への腎代替療法とケア	9/4(木)	
	2524	認知症高齢者の看護実践に必要な知識【第1回】 *「認知症患者のアセスメントや看護方法等に関する適切な研修」 に対応	9/10(水)	
	2525	認知症高齢者の看護実践に必要な知識【第2回】 *「認知症患者のアセスメントや看護方法等に関する適切な研修」 に対応	9/11(木)	
	2526	New 目からウロコのクスリ問答～薬の最新知識と安全な与薬管理～	9/12(金)	
	2527	患者の急変予測と急変対応 ～患者の様子が“何かおかしい”に気づく～	9/18(木)	
	2528	New お口のケアからやがては生命力の維持・回復へ	9/26(金)	

委員会主催交流会(6月～8月)

委員会主催の交流会については、会員無料で参加できます!
この機会にぜひ参加して、スキルアップしていきましょう。

月	委員会名	研修名	開催期間	申込方法等
6月	三職能	三職能合同交流会「意思決定支援～全世代における患者・ 家族の人生の選択を支援する～」	6/21(土)	お申込み・詳細については、 ホームページをご覧ください。 【お問合せ先】 総務部 0957-49-8050
7月	災害看護	災害支援ナース交流会	7/5(土)	
8月	看護師	看護師職能I・II合同研修・交流会「気持ちよく出す」ことを叶 える排便ケア～本人の力を引き出す排便ケア～	8/9(土)	

病院紹介

Hospital introduction

独立行政法人国立病院機構 長崎病院



当院は全国140施設からなる国立病院機構病院のひとつです。

長崎の地にあって「地域になくてはならない病院」として3つの柱を掲げ、急性期病院では担えない医療を提供しています。

1. 「支える医療」

重症心身障碍児（者）の方々の医療と療育に加え、神経難病の方々のセーフティーネット系の医療を展開し、障がいを抱える人とご家族を支える医療を実践しています。

2. 「つなぐ医療」

急性期を乗り越えられた方の回復期医療としてリハビリ医療を継続し在宅、後方へつなぐ医療を行っています。

3. 「癒す医療」

終末期の患者さん等への疼痛緩和を中心とした医療にも取り組んでいます。

看護部では、長期入院となる患者さんも多いため、患者・ご家族ともに寄り添った看護の提供ができるように努めております。看護職員は「その人らしさを尊重したあたたかい看護を提供します」という看護理念のもと、その人が生きてきた歴史・環境や価値観を大切にし、生きる力を支える人であり、患者・ご家族、地域の方々との関わりの中で看護師自身も常に学び育ち合う人材でありたいと考えます。入職時からキャリアラダーに沿って教育を行い、院内では認定看護師や看護師特定行為研修修了者も活躍しています。



患者さんの思いを大切にしています



入院中であっても、行事を楽しんでもらいたいと考えています



入職時からプリセプターがやさしく指導します



協会認定重症心身障害看護師



認定看護師
(緩和ケア・感染管理・皮膚排泄ケア・認知症看護)



看護師特定行為研修修了者も活躍しています